


<b>ブラジル連邦共和国</b>			首都	ブラジリア
 <p>緑は豊かな森林資源を、黄は鉱物資源を、青い円は天体を表している。27個の星は首都と州の数で、中央の帯には「秩序と進歩」と書かれている。</p> <p>独立：1822/9/7 ポルトガルより          国連加盟：1945/10/24          政体：連邦共和制</p>	国 の 概 要	国土	面積 851万4,000km <sup>2</sup> （日本の225倍） 世界第5位の面積をもつ。最北部にはギアナ高地がある。北部には世界最大の流域をもつアマゾン川が東流し、セルバとよばれる原生林が生い茂る低湿地を形成する。中部から南部にかけてカンポとよばれる草原で覆われたブラジル高原が広がっている。	
		人口	1億8,640万人	
		言語	ポルトガル語（公用語）	
		通貨	レアル	
		気候	アマゾン流域は熱帯雨林気候で降水量は2,000mm以上である。ブラジル高原はサバナ気候で、5～8月は高温乾燥となる。南部は温帯気候、海岸平野は温帯から亜熱帯気候である。	
		民族	ヨーロッパ系（ポルトガル人、イタリア人、スペイン人）53%、ムラート（白人と黒人の混血）22%、メスティーソ（白人とインディオの混血）12%、アフリカ系11%	
		宗教	カトリック80%、プロテスタント、アフリカ起源の宗教、ユダヤ教、仏教	
教 育 制 度 の 概 要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初等教育（小学校と中学校に値する）は6～10歳の5年間、11～14歳の4年間の9年間で、高等学校は15～17歳の3年間である。</li> <li>・師範学校、職業学校もあり、大学は3～6年間である。</li> <li>・公立学校の授業料は無料である。</li> <li>・都市部には私立学校も多い。</li> </ul>		
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初等教育の9年間が義務教育期間である。</li> <li>・その年の7月31日までに満6歳になる者は、その年の2月20日に義務教育の第1学年に入学する（各州によって若干異なる）。6歳からの入学率は81%にとどまっているが、義務教育全体の就学率は98%である。</li> <li>・落第制度や経済的に働かなければならないという実態などから、義務教育修了者率は国民全体の54%である。また、退学率は8.3%である。</li> </ul>		

<p>日本と比較した 教育課程上の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校年度は 2 月 20 日から 12 月 22 日である。</li> <li>・ 2 学期制で 1 学期は 2 月上旬～7 月上旬、2 学期は 8 月上旬～12 月上旬となっている。</li> <li>・ ほとんどの学校に午前部・午後部がある。また、働きながら学ぶ夜間学校の制度もある。夜間の部には大人もいる。</li> <li>・ 学校は月曜～金曜日までの週 5 日制で、授業時間は 1 日 4 時間である。</li> <li>・ 年間授業日数約 180 日、年間授業時数約 720 時間、週授業時数約 20 時間である。</li> <li>・ 授業の 1 単位時間は 40～50 分で、休憩時間は 1 回だけ、30 分である。この間におやつを食べる。</li> <li>・ 授業時数は、日本と比較すると、音楽・図画工作・技術家庭が少ない。特別活動はなく、宗教の時間がある。</li> <li>・ 公立学校は施設が不足気味で、体育館やプールのある学校はほとんどない。</li> </ul>
<p>義務教育後の教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高等学校は 15～17 歳までの 3 年間で、普通科と専門科がある。一般に私立学校の場合、専門科の方がレベルが高く、大学進学率も高いといわれている。電気・電子・会計・経営技術・データ処理・師範などの分野がある。</li> <li>・ 一般大学は 18～21 歳までの 4 年間(医科系は 6 年間、工科・法科は 5 年間)である。大学には単科大学と総合大学がある。</li> <li>・ 高校への進学率は当該年齢人口の 30%に満たない。高校 1 年に入学する生徒のうち、75%が卒業する。</li> <li>・ 大学生の数は総人口の 1%程度である。大学機関は全国に 1, 180 校あり、その 80%が私立、残る 20%は公立で、さらに連邦立・州立・市立に分かれている。</li> <li>・ 公立の大学は無料であるため、競争率が非常に激しく、合格できなかった場合は、翌年再度挑戦するか、学費の安い私立大学に進むことになる。</li> </ul>
<p>就学前教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就学前教育は義務ではない。</li> <li>・ 公立の幼児教育の学校は少なく、ほとんどが私立であるが経費は高く、裕福な者しか通えないのが現状である。</li> <li>・ 保育園が 0～3 歳、幼稚園が 4～5 歳の 5 年間である、内容は遊戯や歌などで、午前の部と午後の部に分かれている。小学校入学前の 1 年間は絵を描いたり、文字の読み書きなどの学習をしたりする。</li> </ul>

学 校 生 活	休業期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休業は12月～2月（約50日間）、冬季休業は7月～8月（約30日）である。</li> <li>・休業中の宿題や登校日はない。</li> <li>・学年は2月または3月に始まり、2学期制である。</li> </ul>
	学級担任制、教科担任制等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校は学級担任制、中学校では教科担任制である。</li> </ul>
	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落第制度があるため、年齢の異なる子どもが同じ教室で学ぶ光景も見られる。</li> <li>・年間の欠席日数が授業日数の25%を超えると出席日数不足で落第となる。また、成績による落第制度もある。</li> <li>・落第は小学校1年生からあり、進級できず、学校に行かなくなる児童もいる。</li> <li>・飛び級は可能であるが、あまり行われていない。</li> </ul>
	教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムは教育省や州教育局の規定に従って実施する。</li> <li>・教育法が改定されてからは、全国的に共通する国語・社会科（地理と歴史）・算数・理科・外国語（英語・スペイン語など）の他に、各地域の特徴を取り入れた科目など、児童生徒の日常生活に関連した身近なテーマが導入されている。</li> <li>・体育は、午前・午後の部では義務づけられているが、夜間の部では学校の主旨による。</li> <li>・音楽、美術、水泳等は学校ではなく、クラブ（クルーベ）で学ぶことが多い。</li> <li>・算数の割り算の方法が日本と異なる。</li> <li>・ポルトガル語で百のことを「セン」というので、日本語の「千」と間違えやすい。</li> <li>・清掃活動はない。</li> </ul>
	学校行事の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業式と6月のお祭り（フェスタジュニーナ）をすることが多い。</li> <li>・運動会はないが科学発表会を行う学校がある。</li> </ul>
	給食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食がある。給食代は国立教育促進ファンドより支給され、各市庁によって管理・配給される。メニューも各市庁の学食委員会（学校・教師・父母の代表者）と栄養士によって決められる。なるべく、現地の農作物を使ったもので、各地の食生活に近く、加工が最小限に抑えられたものが望ましいとされている。</li> </ul>
チャイムや号令	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の区切りにチャイムがなる。</li> </ul>	

	<p>教室における行動様式等の違い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は概ね、内容の確認、解説(本読み)、質問、テストという流れである。質問や発言は挙手によらず自由に行うことが多い。</li> <li>・宿題は多く、授業と同様の重みを持っていることもあるので、宿題をしていかないと授業についていけなくなる場合もある。</li> </ul>
	<p>校則</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服装は全ての学校ではないが、制服が採用されている。</li> <li>・私立学校では制服があるが、ジャージ(運動服用)が多い。</li> <li>・女性は生まれてすぐピアスをすることが多い(お守りのように思っている)。</li> <li>・短すぎるスカートや体にぴったりしたシャツを着ていると教師に注意される。</li> </ul>
	<p>保護者の授業参観、保護者会、PTA</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師、保護者、生徒、職員で構成される学校運営審議会があり、お祭りの収益金の使途、教師や生徒に関する問題などを審議する。</li> </ul>
	<p>子どもの一日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下校後、宿題を行い、TV、TVゲーム、サッカー、自転車などで遊ぶ。特に、サッカーがさかんで、小さな子から大きな子まで一緒になって、1個のボールを夢中になって追いかけている。将来、サッカー選手になりたいという夢を持っている子も多い。</li> <li>・外国語、音楽、スポーツ等のクラブに通う子どもがいる一方で、働く子どももいる。</li> </ul>
	<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の給与は非常に安く、複数の学校を掛け持ちする教員がほとんどである。教師は自分の受け持つ授業のみが勤務時間で、授業が終わると帰宅する。</li> </ul>
<p>生活習慣等</p>	<p>言葉の指導面の留意事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつをよくする。あいさつは握手、肩を叩き合ったりすることもある。</li> <li>・感謝の言葉はちょっとした好意や手間に対しても使われる。</li> <li>・日本語の学習では、「ツ」と「ス」と「チュ」の区別がつかない、「ハ行」の子音が脱落してしまうことがある。</li> </ul>
	<p>宗教上の忌避事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特にない。</li> </ul>
	<p>指による数の数え方 計算方法の違い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小指か人差し指から数え始める。</li> <li>・割算の方法が日本と異なる</li> </ul> <p>&lt;例&gt; <math>125 \div 5 = 25</math>      <math>125 \mid 5</math></p> $\begin{array}{r} 125 \mid 5 \\ -10 \quad 25 \\ \hline 25 \end{array}$

	ー25 0
食生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食はコーヒーとパン程度。昼食は2時間程度かけ、ゆっくり楽しみながら食べることが多い。夕食を食べた後、夜食を楽しむこともある。</li> <li>・代表的な食事は、ご飯、フェイジョン（豆料理）、肉です。</li> <li>・「いただきます」のように食事の前に言う言葉はない。</li> </ul>
衣服住居の違い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制服を決めている学校もあるが、例えばジーパンにTシャツといった程度のこともある。帽子を被ることは比較的少ない。</li> <li>・住居は西洋式で室内も土足である。</li> </ul>
交通規則の違い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車は右側通行。ほとんどの道路が一方通行である。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的には、ファーストネーム（＋ミドルネーム）＋名字1（母方）＋名字2（父方）であるが、日系人の場合は、ブラジルのファーストネームと日本語のファーストネームがあり、ファーストネームが2つあることが多い。</li> <li>・名前を呼ぶときは、名字では呼ばず、名前を呼ぶ。</li> <li>・子どもに人気の遊び「ケイマダ」は日本のドッジボールとほぼ同じである。</li> <li>・じゃんけんは、手の形は日本と同じで、「バモス！ペドラ、チゾウラ、パベル」と言いながら手を出します。ペドラはグー、チゾウラはチョキ、パベルはパーのことです。</li> <li>・パパタケンチはみんなで輪になり、熱い（バタタ）ジャガイモ（ケンチ）に見立てた物をとなりの人に手渡していきます。鬼になった人は、後ろを向いて「ケンチ、ケンチ、ケンチ……」と言い続け、最後に「ケイモ」と叫びます。その時、物を持っていた人は輪を抜けていきます。</li> <li>・日本については大半の生徒が「技術が発展し、豊かな文化をもつ国」という印象を抱いており、いつか日本に行ってみたいという生徒も多い。</li> </ul>

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・日本語教材「にほんごをまなぼう」の指導書資料・・・・・・・・文科省
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス

- ・世界の国・地域の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・SIRA キッズ&ジュニア
- ・サンパウロ日本人学校（月刊誌「海外子女教育」）・・・・・・・・海外子女教育振興財団
- ・ブラジルの子どもたちの学校・家庭・暮らし・・・・・・・・学研「ハローワールド」
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・日本語指導教材の開発・・・・・・・・・・・・・・・・井上恵子